

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

支える私、支えられる私

棚倉町立棚倉中学校 3年 藤田 真結

「税金」とは私たちを私たち自身で支える、なくてはならないもの。そう考えるようになったのはつい最近のことだ。

以前は税金と聞くと、なんだか悪いもののよう感じていた。

消費税が10パーセントまで引き上げられたとき、家族やテレビに映る人からはあまりいい声は聞かなかった。SNSでは政治家を批判するような投稿を見かけたこともあった。そのせいか、税金は国民を苦しめるもの、という印象が染みついていた。

しかし、中学三年生になって、やっと税金について学ぶ機会がやってきた。

日本にある税金の種類はおよそ50種類、税金を納める人、場所、使い道によって種類が分けられている。私たち子どもでも消費税は納めているが、50種類もの税金を納める日本人はなんて凄いのだろう、と衝撃を受けた。

さらに衝撃だったのは、税金を納めることより、納めないことの恐ろしさだった。

社会科の授業で受けた租税教室で、とある動画を見た。それは税金のない日本の姿。子どもが学校に行けず、道路は整備されていない。火事で消防を呼んでも「どのコースにしますか？」という、今の時代では絶対に聞くことがない第一声。これが本当に日本なのか？税金がある今を生きる私には、こんな社会想像もできなかった。その動画はアニメだったが、私にはとても恐ろしく

感じた。

私が毎日学校に行けることも、きれいな道路を歩けることも、病院に行ったり救急車や消防車を簡単に呼べることも全部、税金のおかげだ。税金で私たちの生活はこんなにも豊かになっていたのに、私は今までそれを知らなかった。

私たちはどれだけ税金に支えられてきたのだろう？でも、支えられてきただけじゃない、税金を納める私たちもどこかで誰かを支えている。納税者である限り、私たちは支える側でも支えられる側でもあるのだ。

そう考えると、税金ってなんだか奥が深い。

それなのに、なぜ日本人は税金をこんなに嫌がっているのだろう？それはきっと、自分たちの納めた税金の分だけ、生活が豊かになっていることを実感できていないからではないだろうか。転ぶ心配がない道を歩けることが、お金を気にせず病院に、学校に行けることが「当たり前」になってしまっている。

その当たり前を支えているのは私たち自身だというのに。

税金がどのように私たちの生活に関わっているのかをもっと知れたら。自分たちが納めた税金が自分たちの当たり前を作っていること、自分たちでこの日本を支えているということをもっと感じる事ができたら。そうすれば日本はさらに明るく、安心して暮らせる国になる。私はそう信じている。